

# 第3章 社会教育

## 第1節 社会教育活動の拡充

### 第1項 家庭教育

#### 1. 現状と課題

##### (1) 乳幼児学級・家庭教育学級

家庭教育学級は、親等が家庭教育に関する学習を一定期間にわたって計画的、継続的且つ集団的に行うものである。

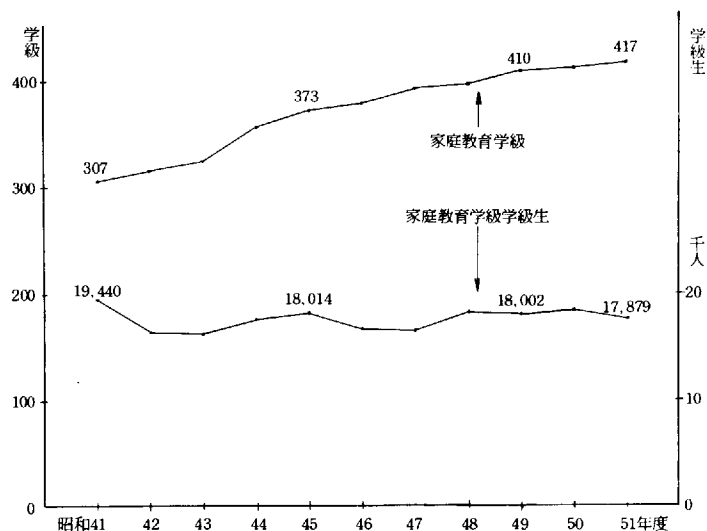
昭和51年度における家庭教育学級開設状況は、県内90市町村中85市町村に417学級開設されている。家庭教育学級及び学級生数の推移を昭和41年度から昭和51年度までにおいてみたのが、図3-1-1である。

家庭教育学級数は年々上昇しているが、1学級当たりの学級生数は、減少状態で適正規模である40人程度に移行しつつある。

なお、昭和51年度の家庭教育学級を対象学級生別で見ると、最も多いのは、小学生対象が295学級(70.7%)であり、次いで乳幼児対象が80学級(19.2%)となっており、中学生、青年対象の学級は少ない(「社会教育統計要覧」(昭51))。

乳幼児期は、その人の生涯にわたる人格形成上最も重要であり、この時期における教育は、極めて大きな意味をもつものである。本県では、生涯教育構想の立場から、その重要性の再認識のもとに、家庭教育学級の中に乳幼児を持つ親等に対し家庭教育に関する学習の機会と場を提供してきたが、乳幼児を持つ親等を対象とする乳幼児学級を昭和50年度から開設し、昭和51年度は31市町村に37学級開設し

図3-1-1 家庭教育学級数及び学級生数の推移



注：「社会教育統計要覧」(昭41～昭51)による。

表3-1-1 乳幼児学級及び学級生の現状

項目	年度	50	51
学級数		34学級	37学級
受講者	男子	139人(8.5%)	31人(1.7%)
	女子	1,488人(91.5%)	1,794人(98.3%)

注：1. 「社会教育統計要覧」(昭50, 昭51)による。  
2. 比率 = (男女別学級生数) ÷ (学級生総数) × 100